



ショパンの再来!!

究極のショパン弾きが魅せる、
バッハ、ベートーヴェン、そしてショパン!



ラファウ・ブレハッチ ピアノ・リサイタル

ショパン・コンクール、ツィメルマン以来のポーランド人優勝者ブレハッチ。審査員から絶賛されたその実力は、さらに進化を続けています。ブレハッチの演奏はまるでショパンその人が弾いているよう、と評されるほど!じっくりと作品を作り上げていく姿勢と深みのある音楽で、人気益々高まるピアニスト、これは聴き逃せません!

- J.S.バッハ: パルティータ 第3番 イ短調 BWV827
- ベートーヴェン: ソナタ 第7番 二長調 OP.10-3
- ショパン: ノクターン 第10番 変イ長調 OP.32-2
- ポロネーズ 第3番 イ長調 OP.40-1 「軍隊」
- 第4番 ハ短調 OP.40-2
- 3つのマズルカ OP.63
- スケルツォ 第3番 嬰ハ短調 OP.39

©Felix Broede

2013年 **2/11** **月・祝** PM2:00

愛知県芸術劇場コンサートホール

S ¥7,500 A ¥6,500 B ¥5,500
C ¥4,500 D ¥3,500 学生 ¥2,000 (税込)

学生券 ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様をお願い致します。

■プログラム内容等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
■未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

主催/中京テレビ放送 企画・運営/中京テレビ事業

お問合せ **お申込み** **中京テレビ事業** ☎052-957-3333

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (月~金 AM9:30~PM5:30/土・日・祝日休業)

<http://cte.jp> **中京テレビ事業** **検索**

座席表からお席をお選びいただけます!

5/26(土) 発売開始!

AM10:00~

チケット販売所

- チケットぴあ (Pコード 164-533) 0570-02-9999
- ローソンチケット (Lコード 48998) 0570-084-004
- 愛知芸術文化センターPG 052-972-0430
- 栄プレチケ92 052-953-0777
- e+ (イープラス) eplus.jp

他 有名プレイガイド

30th
Nagoya
Classic Festival
2012

《新世代のショパン弾き》が奏でる、心に響く美しき演奏



ラファウ・ブレハッチ (ピアノ)

Rafał Blechacz (Piano)

1985年、ポーランドのナクウォ・ナデ・ノテション生まれ。

2005年10月、第15回ショパン国際コンクールにおいて優勝を果たすとともに、マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞、およびツィメルマンによって創設されたソナタ賞を受賞するという快挙を成し遂げた。また、これによって彼は、'75年のツィメルマン以来のポーランド人優勝者となった。

5歳からピアノを習い始め、ピトゴシチ市のルービンシュタイン音楽学校を経て、ナワヴェジスキ音楽大学にてカテリーナ・ボボヴァ=ズイドロン教授に師事した。ブレハッチはこれまでに、様々なコンクールで数々の賞を受賞している。主なものとしては、'02年ルービンシュタイン国際青少年ピアノ・コンクール第2位、'03年第5回浜松国際ピアノ・コンクール1位なしの第2位などがある。さらに'04年第4回モロッコ国際ピアノ・コンクールでは、マズルカとポロネーズの演奏を高く評価され、優勝を飾っている。

ショパン・コンクール優勝後は、ゲルギエフ指揮／マリインスキー歌劇場管弦楽団とのモスクワのチャイコフスキー・ホールにおける共演や、ニューヨーク・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管との共演を果たし、ミュ

ラファウ・ブレハッチの演奏を聴くとき、心が静かな感動に満たされていく。魂が震えるとしても表現すべきだろうか、その演奏は聴き手の内面の奥深いところにひたひたとしのび寄ってきて、真の感動をもたらす。

ブレハッチの演奏は気負いや気どりのや作為的なものが何もない。ただひたすら作品の内奥へと没入し、作曲家の意図するところに肉薄し、自然でピュアな音楽を生み出す。静謐で平穩で思索的で情感豊か。それゆえ、私たちは作品と自然に対峙することができる。

ブレハッチの演奏するショパンはショパンその人が弾いているよう。作曲家が生きた時代の音楽を再現したいと語る彼の言葉通り、馬車が行き交い、人々が自由を渴望し、素朴な生活を営み、戦争などの困難に打ち勝つ強靱な精神を備えていた、その時代の空気を音楽で伝える。ショパンは祖国に対する狂おしいまでの愛、ポーランドの民族舞曲への愛、ピアノという楽器への愛、そして女性に対する愛などさまざまな愛情を作品に込めた。それをブレハッチは楽譜から読み取り、存分に咀嚼し、練習を重ね、完璧に作品と一体となった時点でコンサートにかける。ほんのひとつでも納得がいかない部分があると、人前では弾かない。決して妥協せず、過酷なまでの練習を自身に課し、作品を練り上げていく。

「僕はひとつの作品を演奏会で弾くレヴェルまで仕上げているプロセスが好きなのです。時間がかかり、精神的にも肉体的にも大変なことです、その間はその作品とだけ向き合える。なんと幸せなことでしょう。完全に作品と一体化できた時点で聴いていただく。今度は聴衆が作品に近づく番。それが理想です」

2005年のショパン国際ピアノ・コンクールでは、ブレハッチが演奏するたびに審査員が涙を流し、聴衆も頬を濡らす人が後を絶たなかった。あれから5年、ショパンと同化した演奏はいまや世界中の人々の心をとらえ、「新世代のショパン弾き」の名をほしいままにしている。演奏会の数を絞り、1回1回に全身全霊を傾けるブレハッチ。その地に足を着けた生きかたが音楽に反映し、欧米の耳の肥えた聴衆の熱狂的な賞賛を浴びている。今回の日本公演では、これまで演奏していないショパンの新たな作品を多数披露する。ショパンの様式にのっとった、本物を聴く喜びを再び私たちに届けてくれるに違いない。

音楽ジャーナリスト 伊熊よし子

ンヘンのヘラクレスザール、ロンドンのウイグモア・ホール、パリのシャトレ座のほか、ルール、ラ・ロック・ダンテロン、ヴェルビエなどヨーロッパの主要音楽祭から招待を受け公演を行っている。'10年には、栄誉あるキジアナ音楽院国際賞を受賞した(イタリアのシエナ)。この賞は、年に一度、音楽批評家による国際的審査員団が、優秀な芸術的功績を称えて若い音楽家に与えているものである。

'06年、ドイツ・グラモフォンと5年間の専属契約を結び、「ショパン：前奏曲集」、「ウィーン古典派ソナタ集」をリリース。この2枚のCDの大成功に続き、'10年のショパン・イヤーを記念して、「ショパン：ピアノ協奏曲第1番、第2番」を、イェジー・セムコフ指揮／ロイヤル・コンサートヘボウ管との共演で録音し、ドイツ・レコード批評家賞を受賞。このCDは、ポーランドでリリースされるやいなや200万枚レベルのヒットを記録した。

ショパン生誕200周年となる'10年は、アムステルダム、ベルリン、パリ、ウィーン、ワルシャワ、チューリッヒ、ローマ、ニューヨーク、東京など、世界の主要都市にて演奏会を行った。